

芸術祭が始まる

東京藝術大学美術学部絵画科准教授
アーツ前橋チーフキュレーター

みやもと 宮本
たけのり 武典

⑫ 手仕事のなかに美の女神は宿るか

アーティストのレア・エンベリさんを桐生の織物工場に案内しました。井清織物さんでは古いジャカード式シャツ織機で帯を織り続ける井上さん夫妻のこだわり、笠盛さんでは若い女性たちが担う高精度な立体刺繍の生産ラインに感激していたレアさん。



彼女は昨年、国費留学生として東京藝術大学大学院を修了したあと、母国のセルビアに戻って活動していたのですが、群馬県のアーティスト支援プログラム「群馬パーセントフォート」の招へい作家として再来日し、前橋で2

か月間の滞在制作を行っています。

レアさんのこれまでの研究テーマは、美術史において女性のヌードはどのような意味や役割をもって描かれてきたかでした。古今東西、さまざまな文化圏でシンボルとして描かれた女性の図像を生成AIでミックスした彼女なりの「ミューズ(女神)」を、大きなキャンバスや建物の壁に描いていたのですが、現在は伝統的な針仕事が気になるとのこと。青森県南部地方を旅した際、レアさんは日本三大刺し子のひとつ「南部菱刺し」の伝統を受け継ぐ女性たちと交流しました。子どもの足袋などの保温・補強のために生まれた



刺し子の愛らしい図案と手仕事の風景に心ひかれたレアさんは、セルビアでも同じように、祖母世代の女性たちが集まって麻や羊毛の生地に幾何学模様を刺繍していたことを思い出したそうです。「大学ではグローバルな美術史を学んできましたが、八戸や桐生への旅をきっかけに、世界史では語られない女性たちの相互扶助的なものづくりに興味を湧いてきました。私が表現したいミューズは神話や名画の中ではなく、この小さな刺繍の模様の中にいるのかもかもしれません」と、前橋に戻る車中で桐生でいただいた切れ端を手のひらに乗せながら、レアさんはしみじみと語ってくれたのです。

発行/編集 桐生市共創企画部魅力発信課
〒376-8501 群馬県桐生市織物町1-1

広報せりゆう 令和8年4月号 No.1597

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで(申し込み時)の桐生っ子を募集します。

申 右の二次元コードから電子申請でお申込みください。



問 魅力発信課 (☎46-1049)



いしはら 石原 さわちゃん
4歳2か月

子育て支援センター・キノピーランド 「こどもの日」は開場します

祝日は休館日ですが、5月5日(祝)「こどもの日」は開場します。ぜひご利用ください。

時 午前10時～午後3時30分(キノピーランドは、土日の利用時間区分)

場 保健福祉会館3階

問 子育て支援センター(☎46-5031)



広告

☎0277-46-1111 F AX0277-43-1001
HP <https://www.city.kiryu.lg.jp/>